



兵術免許皆伝書、部分(佐賀県立名護屋城博物館蔵)

鍋島武芸帖

— 佐賀藩士が修めた武芸の姿 —

日時: 令和6年 8月24日(土) 13時30分~15時(開場 13時)

会場: 佐賀県立佐賀城本丸歴史館 外御書院

講師: 都留慎司 (本館学芸員) [聴講無料・当日受付]

江戸時代に入ると武士のあり方は大きく変化し、戦闘者としてよりも官僚としての役割が強く求められるようになりました。その一方で、武士にとって「武」とは己のあり方を示す重要なアイデンティティであり、「武」の象徴の一端を担う武芸は、勉学とともに身に付けておくべき素養の一つとして位置づけられていました。

佐賀藩においても、剣術の肥前タイ捨流や鉄人流、柳生新陰流、槍術の南都宝蔵院流や姉川流、弓術の日置流など、多様な武芸が修められていたことで知られています。本講演会では、近代以前に佐賀で行われていた「武芸」の姿を、当時の武術書や武具等から紹介します。